

# ダイワ外貨建て海外社債ファンド 2014-03 (為替ヘッジあり／為替ヘッジなし)

## 運用報告書(全体版) 満期償還

(償還日 2019年3月22日)  
(作成対象期間 2018年9月26日～2019年3月22日)

### 受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

当ファンドは、海外企業が発行する外貨建ての社債等に投資することにより、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざしており、信託期間中につきましてもそれに沿った運用を行ないました。ここに、謹んで運用状況と償還の内容をお知らせいたします。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

## 大和投資信託

Daiwa Asset Management

東京都千代田区丸の内一丁目9番1号  
お問い合わせ先(コールセンター)  
TEL 0120-106212  
(営業日の9:00～17:00)

<https://www.daiwa-am.co.jp/>

<2680>  
<2681>

### ★当ファンドの仕組みは次の通りでした。

商品分類	単位型投信／海外／債券		
信託期間	約5年間(2014年3月31日～2019年3月22日)		
運用方針	安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざして運用を行ないます。		
主要投資対象	ベビーファンド	ダイワ外貨建て海外社債マザーファンドの受益証券	
	ダイワ外貨建て海外社債マザーファンド	米ドル、ユーロおよび豪ドル建ての社債等	
組入制限	ベビーファンドのマザーファンド組入上限比率	無制限	
	マザーファンドの株式組入上限比率	純資産総額の10%以下	
分配方針	分配対象額は、元本超過額または経費控除後の配当等収益のうちいずれが多い額とし、原則として、経費控除後の配当等収益の中から分配することをめざします。ただし、基準価額の水準等を勘案し、元本超過額も含めて分配を行なうことがあります。なお、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないことがあります。		

為替ヘッジあり

設定以来の運用実績

決算期	基準価額				受益者 利益回り	公社債 組入比率	債券先物 比率	元本 残存率
	(分配落)	税込 分配 金	期中 騰落 額	期中 騰落 率				
設定 (2014年3月31日)	円 10,000	円 —	円 —	% —	% —	% —	% —	% 100.0
1期末 (2014年9月22日)	10,140	110	250	2.5	5.2	101.8	—	98.6
2期末 (2015年3月23日)	10,237	160	257	2.5	5.2	98.0	—	72.0
3期末 (2015年9月24日)	9,950	100	△ 187	△ 1.8	2.2	96.4	—	66.2
4期末 (2016年3月22日)	9,908	100	58	0.6	1.9	94.8	—	57.8
5期末 (2016年9月23日)	10,057	120	269	2.7	2.6	92.8	—	50.7
6期末 (2017年3月22日)	9,718	100	△ 239	△ 2.4	1.4	95.7	—	47.3
7期末 (2017年9月22日)	9,791	100	173	1.8	1.7	98.1	—	38.4
8期末 (2018年3月22日)	9,431	100	△ 260	△ 2.7	0.8	94.8	—	36.2
9期末 (2018年9月25日)	9,226	100	△ 105	△ 1.1	0.5	99.3	—	27.9
償還 (2019年3月22日)	9,258.66	—	32.66	0.4	0.5	—	—	16.1

(注1) 基準価額の騰落額および騰落率は分配金込み。

(注2) 公社債および債券先物の組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。

(注3) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）を除きます。

(注4) 債券先物比率は買建比率－売建比率です。

(注5) 当ファンドは、ファンドの運用方針に対して適切な比較指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載しておりません。



## 運用経過

### 基準価額等の推移について



#### ■ 基準価額・騰落率

設定時：10,000円

償還時：9,258円66銭 (既払分配金990円)

騰落率：2.3% (分配金再投資ベース)

#### ■ 基準価額の主な変動要因

「ダイワ外貨建て海外社債マザーファンド」の受益証券を通じて、主として海外企業が発行する外貨建ての社債に投資し、為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行った結果、保有債券からの利息収入などを反映し、基準価額は上昇しました。くわしくは「設定以来の投資環境について」をご参照ください。

ダイワ外貨建て海外社債ファンド2014-03 (為替ヘッジあり)

年 月 日	基 準 価 額		公 社 債 率 組 入 比 率	債 券 先 物 率 比
	円	騰 落 率 %		
(期 首) 2018年 9月25日	9,226	—	99.3	—
9月末	9,242	0.2	99.7	—
10月末	9,161	△ 0.7	94.4	—
11月末	9,098	△ 1.4	95.7	—
12月末	9,110	△ 1.3	95.6	—
2019年 1月末	9,251	0.3	97.6	—
2月末	9,268	0.5	—	—
(償 還) 2019年 3月22日	9,258.66	0.4	—	—

(注) 騰落率は期首比。

## 設定以来の投資環境について

（2014. 3. 31 ~ 2019. 3. 22）

### ■海外債券市況

当ファンド設定時より2015年前半にかけては、原油価格の急落に加え、E C B（欧州中央銀行）などの追加金融緩和を背景に、米国をはじめとする主要国で国債金利の低下圧力が高まりました。社債市場では、ウクライナや中東地域で地政学リスクが高まったことなどもあり、スプレッド（国債に対する上乗せ金利）は拡大しましたが、世界的な金融緩和を背景に多くの社債は金利が低下しました。8月の中国・人民元切下げを契機に中国の景気減速懸念が広がったほか、原油など商品市況が一段安となったことから市場はリスク回避姿勢を強め、社債金利は2016年前半にかけて、スプレッドの拡大を伴って上昇しました。その後、人民元の急落や英国のE U（欧州連合）離脱に対する警戒感などを背景に主要国の国債金利が低下する中、社債金利は日銀やE C Bによる新たな金融緩和策に支援され、スプレッドの縮小とともに上昇幅を縮めました。2016年後半には、米国大統領選挙で勝利したトランプ氏の経済政策に対する期待感から、国債に連れて社債金利も大きく上昇しました。2017年に入ると、トランプ政権の政策実行能力への懸念や北朝鮮情勢への警戒感などが、金利上昇を抑制する要因となりました。9月以降は、F R B（米国連邦準備制度理事会）が継続的な利上げ実施を示唆する中、バランスシートの縮小開始を決定したこともあり、社債金利は国債とともに上昇基調となりました。しかし、F R B高官が相次いで将来的な利上げ打ち止めを連想させる発言をしたことなどを受け、上昇幅を縮めました。

## 信託期間中の運用方針

### ■当ファンド

主として、「ダイワ外貨建て海外社債マザーファンド」の受益証券を通じて、海外企業が発行する外貨建ての社債等に投資することにより、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざして運用を行います。また、為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行います。

### ■ダイワ外貨建て海外社債マザーファンド

主として、海外企業が発行する外貨建ての社債等に投資することにより、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざして運用を行います。

## 信託期間中のポートフォリオについて

（2014. 3. 31 ～ 2019. 3. 22）

### ■当ファンド

「ダイワ外貨建て海外社債マザーファンド」の受益証券を高位に組み入れるとともに、為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行いました。

### ■ダイワ外貨建て海外社債マザーファンド

主として海外企業が発行する外貨建ての社債等に投資し、安定した収益の確保および信託財産の着実な成長をめざして運用を行いました。業種別では、流動性や利回り面で投資妙味のある金融セクターを軸とするポートフォリオ構成を維持しました。

## ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

## 分配金について

1万口当り、第1期110円、第2期160円、第3期～第4期各100円、第5期120円、第6期～第9期各100円の収益分配を行いました。

受益者のみなさまにおかれましては、当ファンドをご愛顧いただき厚く御礼申し上げます。今後とも証券投資信託の運用につきましても、受益者のみなさまのご期待に沿えますよう万全を期して努力する所存でございますので、一層のご愛顧を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

## 1 万口当りの費用の明細

項 目	当 期 (2018. 9. 26~2019. 3. 22)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	62円	0.671%	信託報酬＝当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 当作成期中の平均基準価額は9,185円です。
( 投 信 会 社 )	(24)	(0.263)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託銀行への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価
( 販 売 会 社 )	(36)	(0.395)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
( 受 託 銀 行 )	(1)	(0.013)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売 買 委 託 手 数 料	—	—	売買委託手数料＝当作成期中の売買委託手数料／当作成期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有 価 証 券 取 引 税	—	—	有価証券取引税＝当作成期中の有価証券取引税／当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
そ の 他 費 用	1	0.009	その他費用＝当作成期中のその他費用／当作成期中の平均受益権口数
( 保 管 費 用 )	(1)	(0.009)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
( そ の 他 )	(0)	(0.000)	信託事務の処理等に関するその他の費用
合 計	63	0.680	

(注1) 当作成期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

(注3) 各比率は1万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第3位未満を四捨五入してあります。

(注4) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

## ダイワ外貨建て海外社債ファンド2014-03（為替ヘッジあり）

### ■売買および取引の状況

#### 親投資信託受益証券の設定・解約状況

（2018年9月26日から2019年3月22日まで）

	設 定		解 約	
	□ 数	金 額	□ 数	金 額
	千口	千円	千口	千円
ダイワ外貨建て海外社債マザーファンド	—	—	555,378	660,474

（注）単位未満は切捨て。

### ■利害関係人との取引状況等

当作成期中における利害関係人との取引はありません。

### ■組入資産明細表

最終期末における有価証券等の組み入れはありません。

#### 親投資信託残高

種 類	期 首
	□ 数
	千口
ダイワ外貨建て海外社債マザーファンド	555,378

（注）単位未満は切捨て。

### ■投資信託財産の構成

2019年3月22日現在

項 目	償 還 時	
	評 価 額	比 率
	千円	%
コール・ローン等、その他	387,568	100.0
投資信託財産総額	387,568	100.0

（注）評価額の単位未満は切捨て。

### ■資産、負債、元本および基準価額の状況

2019年3月22日現在

項 目	償 還 時
(A) 資産	387,568,907円
コール・ローン等	387,568,907
(B) 負債	5,355,915
未払解約金	2,777,700
未払信託報酬	2,575,251
未払利息	2,964
(C) 純資産総額 (A - B)	382,212,992
元本	412,816,602
償還差損益金	△ 30,603,610
(D) 受益権総口数	412,816,602口
1万口当り償還価額 (C / D)	9,258円66銭

\* 償還時の計算口数当りの純資産額は9,258円66銭です。

\* 償還時の純資産総額が元本額を下回っており、その差額は30,603,610円です。

### ■損益の状況

当期 自2018年9月26日 至2019年3月22日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	△ 5,420円
受取利息	3
支払利息	△ 5,423
(B) 有価証券売買損益	102,357,800
売買益	135,396,215
売買損	△ 33,038,415
(C) 有価証券評価差損益	△ 97,083,297
(D) 信託報酬等	△ 3,918,046
(E) 当期損益金 (A + B + C + D)	1,351,037
(F) 前期繰越損益金	△ 55,106,390
(G) 解約差損益金	23,151,743
(H) 合計 (E + F + G)	△ 30,603,610
償還差損益金 (H)	△ 30,603,610

（注1）有価証券評価差損益は、有価証券の期末の評価損益と期首との差額です。

（注2）信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しております。

（注3）解約差損益金とは、一部解約時の解約価額と元本との差額をいい、元本を下回る場合は利益として、上回る場合は損失として処理されます。

投資信託財産運用総括表

信託期間	投資信託契約締結日	2014年3月31日		投資信託契約終了時の状況	
	投資信託契約終了日	2019年3月22日		資産総額	387,568,907円
区分	投資信託契約締結当初	投資信託契約終了時	差引増減又は追加信託	負債総額	5,355,915円
				純資産総額	382,212,992円
受益権口数	2,550,287,630口	412,816,602口	△ 2,137,471,028口	受益権口数	412,816,602口
元本額	2,550,287,630円	412,816,602円	△ 2,137,471,028円	1単位当り償還金	9,258円66銭
毎計算期末の状況					
計算期	元本額	純資産総額	基準価額	1単位当り分配金	
				金額	分配率
	円	円	円	円	%
第1期	2,514,500,887	2,549,657,253	10,140	110	1.10
第2期	1,836,690,394	1,880,255,377	10,237	160	1.60
第3期	1,690,345,264	1,681,913,664	9,950	100	1.00
第4期	1,474,787,901	1,461,148,899	9,908	100	1.00
第5期	1,295,402,646	1,302,847,959	10,057	120	1.20
第6期	1,207,590,712	1,173,547,180	9,718	100	1.00
第7期	980,665,543	960,160,347	9,791	100	1.00
第8期	925,631,838	872,938,054	9,431	100	1.00
第9期	712,284,074	657,177,684	9,226	100	1.00
信託期間中1単位当り総収益金および年平均収益率				248円66銭	0.50%

(注) 1単位は受益権1万口。

償還金のお知らせ

1万口当り償還金

9,258円66銭

償還金の課税上の取扱いについて

- ・償還時の差益（償還価額から取得費用（申込手数料（税込み）を含む）を控除した利益）については、譲渡所得とみなされ、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%および地方税5%）の税率により、申告分離課税が適用されます。
- ・法人の受益者の場合、税率が異なります。
- ・税法が改正された場合等には、上記の内容が変更になることがあります。くわしくは、販売会社にお問い合わせください。
- ・課税上の取扱いの詳細につきましては、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

為替ヘッジなし

設定以来の運用実績

決算期	基準価額				受益者 利益回り	公社債 組入比率	債券先物 比率	元本 残存率
	(分配落)	税 分 配	込 み 金	期 騰 落 額				
設 定 (2014年 3月31日)	円 10,000	円 —	円 —	円 —	% —	% —	% —	% 100.0
1 期末 (2014年 9月22日)	10,587	135	722	7.2	15.0	97.3	—	99.1
2 期末 (2015年 3月23日)	11,325	165	903	8.5	16.6	96.5	—	88.4
3 期末 (2015年 9月24日)	10,771	175	△ 379	△ 3.3	8.4	98.0	—	27.0
4 期末 (2016年 3月22日)	10,193	160	△ 418	△ 3.9	4.2	95.2	—	23.0
5 期末 (2016年 9月23日)	9,495	100	△ 598	△ 5.9	0.9	92.8	—	22.1
6 期末 (2017年 3月22日)	10,211	130	846	8.9	3.6	97.3	—	20.5
7 期末 (2017年 9月22日)	10,467	140	396	3.9	4.2	97.6	—	17.8
8 期末 (2018年 3月22日)	9,545	100	△ 822	△ 7.9	1.6	96.5	—	17.5
9 期末 (2018年 9月25日)	9,975	100	530	5.6	2.6	98.0	—	16.7
償 還 (2019年 3月22日)	9,902.91	—	△ 72.09	△ 0.7	2.2	—	—	10.5

(注1) 基準価額の騰落額および騰落率は分配金込み。

(注2) 公社債および債券先物の組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。

(注3) 公社債組入比率は新株予約権付社債券(転換社債券)を除きます。

(注4) 債券先物比率は買建比率-売建比率です。

(注5) 当ファンドは、ファンドの運用方針に対して適切な比較指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載しておりません。



## 運用経過

### 基準価額等の推移について



#### ■ 基準価額・騰落率

設定時：10,000円

償還時：9,902円91銭 (既払分配金1,205円)

騰落率：11.2% (分配金再投資ベース)

#### ■ 基準価額の主な変動要因

「ダイワ外貨建て海外社債マザーファンド」の受益証券を通じて、主として海外企業が発行する外貨建ての社債に投資した結果、保有債券からの利息収入や米ドルが対円で上昇したことなどを反映し、基準価額は上昇しました。くわしくは「設定以来の投資環境について」をご参照ください。

ダイワ外貨建て海外社債ファンド2014-03 (為替ヘッジなし)

年 月 日	基 準 価 額		公 社 債 率 組 入 比 率	債 券 先 物 率 比
	円	騰 落 率 %		
(期 首) 2018年 9月25日	9,975	—	98.0	—
9月末	10,028	0.5	98.0	—
10月末	9,908	△ 0.7	94.3	—
11月末	9,939	△ 0.4	95.5	—
12月末	9,700	△ 2.8	97.1	—
2019年 1月末	9,747	△ 2.3	97.5	—
2月末	9,913	△ 0.6	—	—
(償 還) 2019年 3月22日	9,902.91	△ 0.7	—	—

(注) 騰落率は期首比。

## 設定以来の投資環境について

(2014. 3. 31 ~ 2019. 3. 22)

## ■海外債券市況

当ファンド設定時より2015年前半にかけては、原油価格の急落に加え、E C B（欧州中央銀行）などの追加金融緩和を背景に、米国をはじめとする主要国で国債金利の低下圧力が高まりました。社債市場では、ウクライナや中東地域で地政学リスクが高まったことなどもあり、スプレッド（国債に対する上乗せ金利）は拡大しましたが、世界的な金融緩和を背景に多くの社債は金利が低下しました。8月の中国・人民元切下げを契機に中国の景気減速懸念が広がったほか、原油など商品市況が一段安となったことから市場はリスク回避姿勢を強め、社債金利は2016年前半にかけて、スプレッドの拡大を伴って上昇しました。その後、人民元の急落や英国のE U（欧州連合）離脱に対する警戒感などを背景に主要国の国債金利が低下する中、社債金利は日銀やE C Bによる新たな金融緩和策に支援され、スプレッドの縮小とともに上昇幅を縮めました。2016年後半には、米国大統領選挙で勝利したトランプ氏の経済政策に対する期待感から、国債に連れて社債金利も大きく上昇しました。2017年に入ると、トランプ政権の政策実行能力への懸念や北朝鮮情勢への警戒感などが、金利上昇を抑制する要因となりました。9月以降は、F R B（米国連邦準備制度理事会）が継続的な利上げ実施を示唆する中、バランスシートの縮小開始を決定したこともあり、社債金利は国債とともに上昇基調となりました。しかし、F R B高官が相次いで将来的な利上げ打ち止めを連想させる発言をしたことなどを受け、上昇幅を縮めました。

## ■為替相場

為替市場では、中国・人民元の下落や英国のE U（欧州連合）離脱に対する警戒感が強まった2016年など、市場のリスク回避姿勢が強まる局面で円が主要通貨に対して強含む傾向が見られました。ただし、日本や欧州、オーストラリアが金融緩和を維持する一方、米国は継続的に利上げを実施するなど、当ファンド設定以来では、金融政策の方向性の違いを背景に米ドルが主要通貨に対して上昇しました。

## 信託期間中の運用方針

### ■当ファンド

主として、「ダイワ外貨建て海外社債マザーファンド」の受益証券を通じて、海外企業が発行する外貨建ての社債等に投資することにより、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざして運用を行います。

### ■ダイワ外貨建て海外社債マザーファンド

主として、海外企業が発行する外貨建ての社債等に投資することにより、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざして運用を行います。

## 信託期間中のポートフォリオについて

(2014. 3. 31 ~ 2019. 3. 22)

### ■当ファンド

「ダイワ外貨建て海外社債マザーファンド」の受益証券を高位に組み入れました。

### ■ダイワ外貨建て海外社債マザーファンド

主として海外企業が発行する外貨建ての社債等に投資し、安定した収益の確保および信託財産の着実な成長をめざして運用を行いました。業種別では、流動性や利回り面で投資妙味のある金融セクターを軸とするポートフォリオ構成を維持しました。

## ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

## 分配金について

1万口当り、第1期135円、第2期165円、第3期175円、第4期160円、第5期100円、第6期130円、第7期140円、第8期～第9期各100円の収益分配を行いました。

受益者のみなさまにおかれましては、当ファンドをご愛顧いただき厚く御礼申し上げます。今後とも証券投資信託の運用につきましては、受益者のみなさまのご期待に沿えますよう万全を期して努力する所存でございますので、一層のご愛顧を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

## 1 万口当りの費用の明細

項 目	当 期 (2018. 9. 26~2019. 3. 22)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	66円	0.671%	信託報酬=当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 当作成期中の平均基準価額は9,854円です。
( 投 信 会 社 )	(26)	(0.263)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託銀行への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価
( 販 売 会 社 )	(39)	(0.395)	販売会社分は、運用報告書等各种書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
( 受 託 銀 行 )	(1)	(0.013)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売 買 委 託 手 数 料	—	—	売買委託手数料=当作成期中の売買委託手数料/当作成期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有 価 証 券 取 引 税	—	—	有価証券取引税=当作成期中の有価証券取引税/当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
そ の 他 費 用	1	0.009	その他費用=当作成期中のその他費用/当作成期中の平均受益権口数
( 保 管 費 用 )	(1)	(0.009)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
( そ の 他 )	(0)	(0.000)	信託事務の処理等に関するその他の費用
合 計	67	0.681	

(注1) 当作成期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

(注3) 各比率は1万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第3位未満を四捨五入してあります。

(注4) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。組み入れている投資信託証券(マザーファンドを除く。)がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

■売買および取引の状況

親投資信託受益証券の設定・解約状況

(2018年9月26日から2019年3月22日まで)

	設 定		解 約	
	□ 数	金 額	□ 数	金 額
	千□	千円	千□	千円
ダイワ外貨建て海外社債マザーファンド	—	—	142,380	168,159

(注) 単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況等

当作成期中における利害関係人との取引はありません。

■組入資産明細表

最終期末における有価証券等の組み入れはありません。

親投資信託残高

種 類	期 首
	□ 数
	千□
ダイワ外貨建て海外社債マザーファンド	142,380

(注) 単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2019年3月22日現在

項 目	償 還 時	
	評 価 額	比 率
	千円	%
コール・ローン等、その他	106,783	100.0
投資信託財産総額	106,783	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2019年3月22日現在

項 目	償 還 時
(A) 資産	106,783,765円
コール・ローン等	106,783,765
(B) 負債	711,354
未払信託報酬	710,538
未払利息	816
(C) 純資産総額 (A - B)	106,072,411
元本	107,112,366
償還差損益金	△ 1,039,955
(D) 受益権総口数	107,112,366□
1万口当り償還価額 (C / D)	9,902円91銭

\* 償還時の計算口数当りの純資産額は9,902円91銭です。

\* 償還時の純資産総額が元本額を下回っており、その差額は1,039,955円です。

■損益の状況

当期 自2018年9月26日 至2019年3月22日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	△ 1,227円
支払利息	△ 1,227
(B) 有価証券売買損益	25,779,689
売買益	25,779,689
(C) 有価証券評価差損益	△ 27,479,349
(D) 信託報酬等	△ 981,257
(E) 当期損益金 (A + B + C + D)	△ 2,682,144
(F) 前期繰越損益金	△ 428,172
(G) 解約差損益金	2,070,361
(H) 合計 (E + F + G)	△ 1,039,955
償還差損益金 (H)	△ 1,039,955

(注1) 有価証券評価差損益は、有価証券の期末の評価損益と期首との差額です。

(注2) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しております。

(注3) 解約差損益金とは、一部解約時の解約価額と元本との差額をいい、元本を下回る場合は利益として、上回る場合は損失として処理されます。

投資信託財産運用総括表

信託期間	投資信託契約締結日	2014年3月31日		投資信託契約終了時の状況	
	投資信託契約終了日	2019年3月22日		資産総額	106,783,765円
区分	投資信託契約締結当初	投資信託契約終了時	差引増減又は追加信託	負債総額	711,354円
				純資産総額	106,072,411円
受益権口数	1,019,839,831口	107,112,366口	△ 912,727,465口	受益権口数	107,112,366口
元本額	1,019,839,831円	107,112,366円	△ 912,727,465円	1単位当り償還金	9,902円91銭
毎計算期末の状況					
計算期	元本額	純資産総額	基準価額	1単位当り分配金	
				金額	分配率
	円	円	円	円	%
第1期	1,010,871,401	1,070,233,176	10,587	135	1.35
第2期	901,733,743	1,021,177,760	11,325	165	1.65
第3期	275,404,009	296,640,796	10,771	175	1.75
第4期	234,751,849	239,284,978	10,193	160	1.60
第5期	226,303,331	214,881,734	9,495	100	1.00
第6期	209,286,009	213,695,910	10,211	130	1.30
第7期	182,198,648	190,702,993	10,467	140	1.40
第8期	178,709,038	170,569,182	9,545	100	1.00
第9期	171,214,233	170,786,061	9,975	100	1.00
信託期間中1単位当り総収益金および年平均収益率				1,107円91銭	2.22%

(注) 1単位は受益権1万口。

償還金のお知らせ

1万口当り償還金

9,902円91銭

償還金の課税上の取扱いについて

- ・償還時の差益（償還価額から取得費用（申込手数料（税込み）を含む）を控除した利益）については、譲渡所得とみなされ、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%および地方税5%）の税率により、申告分離課税が適用されます。
- ・法人の受益者の場合、税率が異なります。
- ・税法が改正された場合等には、上記の内容が変更になることがあります。くわしくは、販売会社にお問い合わせください。
- ・課税上の取扱いの詳細につきましては、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

# ダイワ外貨建て海外社債マザーファンド

## 運用報告書 繰上償還 (償還日 2019年3月20日)

(作成対象期間 2018年9月26日～2019年3月20日)

ダイワ外貨建て海外社債マザーファンドの運用状況をご報告申し上げます。

### ★当ファンドの仕組みは次の通りでした。

運用方針	安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざして運用を行ないます。
主要投資対象	米ドル、ユーロおよび豪ドル建ての社債等
株式組入制限	純資産総額の10%以下

## 大和投資信託

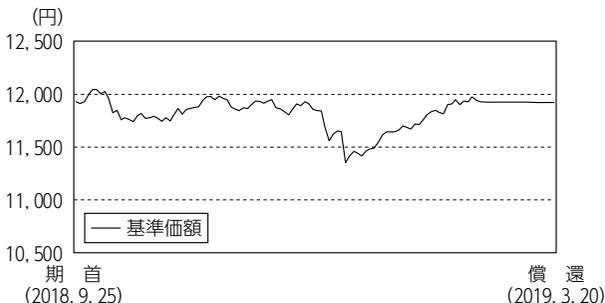
Daiwa Asset Management

東京都千代田区丸の内一丁目9番1号

<https://www.daiwa-am.co.jp/>

## ドイツ外貨建て海外社債マザーファンド

### ■当作成期中の基準価額と市況等の推移



年 月 日	基準価額		公社債組入比率	債券先物比率
	円	騰落率		
(期首) 2018年9月25日	11,930	—	98.5	—
9月末	11,995	0.5	98.5	—
10月末	11,866	△ 0.5	94.5	—
11月末	11,916	△ 0.1	95.8	—
12月末	11,642	△ 2.4	97.3	—
2019年1月末	11,713	△ 1.8	97.4	—
2月末	11,924	△ 0.1	—	—
(償還) 2019年3月20日	11,922.39	△ 0.1	—	—

(注1) 騰落率は期首比。

(注2) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）を除きます。

(注3) 債券先物比率は買建比率－売建比率です。

(注4) 当ファンドは、ファンドの運用方針に対して適切な比較指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載していません。

### 《運用経過》

#### ◆基準価額等の推移について

##### 【基準価額・騰落率】

設定時：10,000円 償還時：11,922円39銭 騰落率：19.2%

##### 【基準価額の主な変動要因】

主として海外企業が発行する外貨建ての社債に投資した結果、保有債券からの利息収入や米ドルが対円で上昇したことなどを反映し、基準価額は上昇しました。

#### ◆設定以来の投資環境について

##### ○海外債券市況

当ファンド設定時より2015年前半にかけては、原油価格の急落に加え、ECB（欧州中央銀行）などの追加金融緩和を背景に、米国をはじめとする主要国で国債金利の低下圧力が高まりました。社債市場では、ウクライナや中東地域で地政学リスクが高まったことなどもあり、スプレッド（国債に対する上乗せ金利）は拡大しましたが、世界的な金融緩和を背景に多くの社債は金利が低下しました。

8月の中国・人民元切下げを契機に中国の景気減速懸念が広がったほか、原油など商品市況が一段安となったことから市場はリスク回避姿勢を強め、社債金利は2016年前半にかけて、スプレッドの拡大を伴って上昇しました。その後、人民元の急落や英国のEU（欧州連合）離脱に対する警戒感などを背景に主要国の国債金利が低下す

る中、社債金利は日銀やECBによる新たな金融緩和策に支援され、スプレッドの縮小とともに上昇幅を縮めました。2016年後半には、米国大統領選挙で勝利したトランプ氏の経済政策に対する期待感から、国債に連れて社債金利も大きく上昇しました。2017年に入ると、トランプ政権の政策実行能力への懸念や北朝鮮情勢への警戒感などが、金利上昇を抑制する要因となりました。9月以降は、FRB（米連邦準備制度理事会）が継続的な利上げ実施を示唆する中、バランスシートの縮小開始を決定したこともあり、社債金利は国債とともに上昇基調となりました。しかし、FRB高官が相次いで将来的な利上げ打ち止めを連想させる発言をしたことなどを受け、上昇幅を縮めました。

##### ○為替相場

為替市場では、中国・人民元の下落や英国のEU（欧州連合）離脱に対する警戒感が強まった2016年など、市場のリスク回避姿勢が強まる局面で円が主要通貨に対して強含む傾向が見られました。ただし、日本や欧州、オーストラリアが金融緩和を維持する一方、米国は継続的に利上げを実施するなど、当ファンド設定以来では、金融政策の方向性の違いを背景に米ドルが主要通貨に対して上昇しました。

##### ◆信託期間中の運用方針

主として、海外企業が発行する外貨建ての社債等に投資することにより、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざして運用を行います。

##### ◆信託期間中のポートフォリオについて

主として海外企業が発行する外貨建ての社債等に投資し、安定した収益の確保および信託財産の着実な成長をめざして運用を行いました。業種別では、流動性や利回り面で投資妙味のある金融セクターを軸とするポートフォリオ構成を維持しました。

##### ◆ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

■1万口当りの費用の明細

項 目	当 期
売買委託手数料	—円
有価証券取引税	—
その他費用 (保管費用)	2 (2)
(その他)	(0)
合 計	2

(注1) 費用の項目および算出法については前掲の「1万口当りの費用の明細」の項目の概要をご参照ください。

(注2) 項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

■売買および取引の状況

公 社 債

(2018年9月26日から2019年3月20日まで)

		買 付 額	売 付 額
外 国	アメリカ	千アメリカ・ドル —	千アメリカ・ドル 5,894 (192)
	オーストラリア	千オーストラリア・ドル —	千オーストラリア・ドル 1,348 (300)

(注1) 金額は受渡し代金(経過利子分は含まれておりません)。

(注2) ( )内は償還による減少分で、上段の数字には含まれておりません。

(注3) 社債券には新株予約権付社債券(転換社債券)は含まれておりません。

(注4) 単位未満は切捨て。

■主要な売買銘柄

公 社 債

(2018年9月26日から2019年3月20日まで)

当 期		期	
買 付		売 付	
銘 柄	金 額	銘 柄	金 額
	千円		千円
		CITIGROUP INC. (アメリカ) 5.5% 2025/9/13	59,536
		National Australia Bank Ltd (オーストラリア) 4.4696% 2026/9/21	56,927
		BPCE SA (フランス) 5.15% 2024/7/21	56,472
		GOLDMAN SACHS GROUP INC. (アメリカ) 4% 2024/3/3	56,252
		RABOBANK NEDERLAND (オランダ) 4.625% 2023/12/1	55,854
		JPMorgan Chase & Co (アメリカ) 3.782% 2028/2/1	55,355
		FORD MOTOR CR. CO. (アメリカ) 4.25% 2022/9/20	54,236
		Macquarie Group Ltd (オーストラリア) 3.763% 2028/11/28	52,258
		Wal-Mart Stores Inc (アメリカ) 5.875% 2027/4/5	38,510
		FedEx Corp (アメリカ) 4.9% 2034/1/15	34,863

(注1) 金額は受渡し代金(経過利子分は含まれておりません)。

(注2) 単位未満は切捨て。

■組入資産明細表

最終期末における有価証券等の組み入れはありません。

## ダイワ外貨建て海外社債マザーファンド

### ■投資信託財産の構成

2019年3月20日現在

項 目	償 還 時	
	評 価 額	比 率
コール・ローン等、その他	478,187 千円	100.0 %
投資信託財産総額	478,187	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

### ■資産、負債、元本および基準価額の状況

2019年3月20日現在

項 目	償 還 時
(A) 資産	478,187,039円
コール・ローン等	478,187,039
(B) 負債	2,492
未払利息	2,492
(C) 純資産総額 (A - B)	478,184,547
元本	401,081,227
償還差損益金	77,103,320
(D) 受益権総口数	401,081,227口
1万口当り償還価額 (C / D)	11,922円39銭

\* 期首における元本額は697,758,796円、当作成期間中における追加設定元本額は0円、同解約元本額は296,677,569円です。

\* 償還時における当マザーファンドを投資対象とする投資信託の元本額は、ダイワ外貨建て海外社債ファンド2014-03 (為替ヘッジあり) 317,113,359円、ダイワ外貨建て海外社債ファンド2014-03 (為替ヘッジなし) 83,967,868円です。

\* 償還時の計算口数当りの純資産額は11,922円39銭です。

### ■損益の状況

当期 自2018年9月26日 至2019年3月20日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	13,086,979円
受取利息	13,110,095
支払利息	△ 23,116
(B) 有価証券売買損益	△ 16,738,178
売買益	6,270,929
売買損	△ 23,009,107
(C) その他費用	△ 129,124
(D) 当期損益金 (A + B + C)	△ 3,780,323
(E) 前期繰越損益金	134,656,074
(F) 解約差損益金	△ 53,772,431
(G) 合計 (D + E + F)	77,103,320
償還差損益金 (G)	77,103,320

(注) 解約差損益金とは、一部解約時の解約価額と元本との差額をいい、元本を下回る場合は利益として、上回る場合は損失として処理されます。